

2004.05.18

資 料

「デザイナーのためのパースペクティブ・テクニック
～基本と描法の実際」(彰国社 編) より

全国建設労働組合総連合 (全建総連)
書記長 佐藤 正明

画材

画材や用具類は、それを使う表現技術と無関係には存在し得ないが、すでにさまざまな表現法にふれておいたので、ここでは代表的な描画材料について具体的に図示しておこう。パース制作のための用具といってもいわゆる普通の絵を描く道具と、原則的に変わるところはない。ただ、こうした画材は知識として知っているだけでなく、直接手にとって実際に使ってみなければ、その特質を理解することはできない。

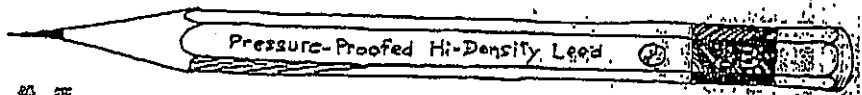
鉛筆類は、普通の黒鉛鉛筆以外にも、さまざまな特性をもったものが市販されている。木炭画・コンテ画などは仕上げたのち汚れるのを防ぐために必ずフィクサチーフで定着する必要がある。

水彩を使用する際には、あらかじめ画面外の部分をテープでマスキングしておくと、仕上がりが美しく見える。不透明水彩の場合は筆ばかりでなく、ローラーなどの用具を活用すると思いがけない表現効果が出る。サッシュの線描には、普通烏口を用いるが、絵具面に使用すると、にじんで太くなりがちである。硬い線よりも軟らかい線を出したい場合には烏口よりも、むしろ筆を滑引きしたほうがよい。

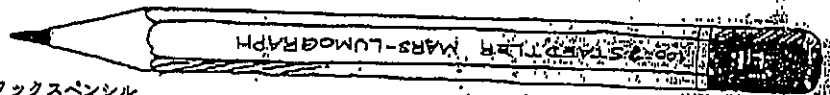
ポスターカラーは大きな空間部分を塗る場合に適しているが、混色すると彩度が低くなるので、これのみで制作することは避けたい。

用紙は大別して硬いものと軟らかいものとに分けられる。製図用ケント紙など表面が緻密で硬い紙はペン画などに向くが、水分の吸収が悪いので、水彩などはむらができやすい。水彩用紙や画用ケント紙などはだいたい粗面で軟らかく、絵具の吸込みがよい。逆にペン先が引掛かったり消ゴムをかけた際にケバ立って画面が汚れる。使用する画材や画法に適した紙質を選ばなくてはならない。水彩画の場合は“水張り”するのが普通であるが、イラストレーションボードはその必要がない。

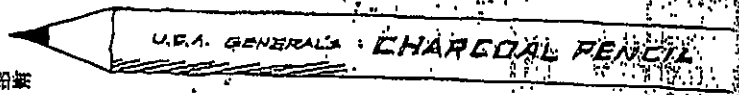
しばしば色のついた紙にパースを描く場合がある。画面全体が一つの色調でまとめられ、背景の空間処理などの省力化と同時に、画面に独特の統一感を与える。この場合紙の地色は原色など強い色彩のものは避け、淡い色を選ぶほうが賢明である。



鉛筆



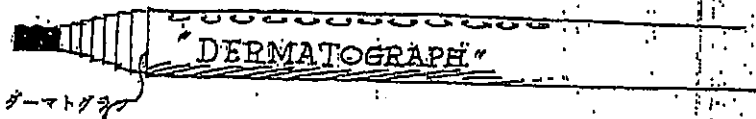
ワックスペンシル



木炭鉛筆



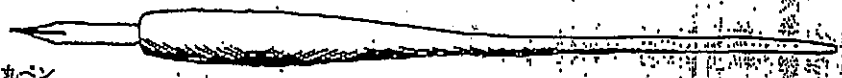
スケッチングペンシル



ダーマトグラフ



芯鉛筆



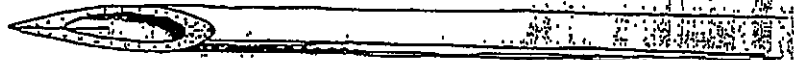
丸ペン



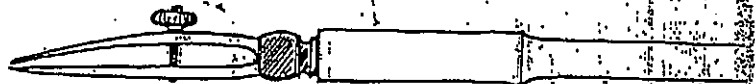
スプーンペン



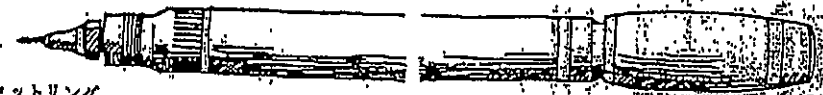
ゴウペン



竹ペン



烏口



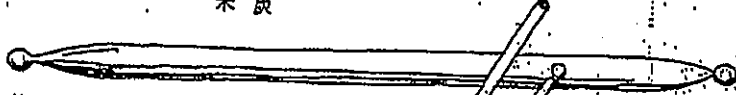
ロットリング



コンテ

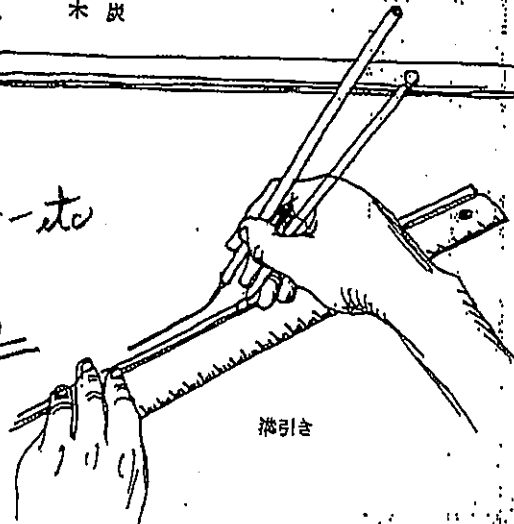


木炭



ガラス棒 (滑引き用)

建築士
↑
インテリアデザイナー
↑
位置決め



滑引き

2004.05.18

示 指 亡 失 の 事 例

全国建設労働組合総連合(全建総連)
書記長 佐藤 正明

聴取①

①年齢56歳 大工歴38年

②傷害発生年齢 35歳

③傷害部位と発生の状況

- 電動ノコギリ操作中、右手示指の亡失、
- 約10年間は通常の大工職の機能、作業量の60%位しか果たせなかった。

④現在の状況

冬には示指MP部分に痛みが残る。

聴取②

①年齢46歳 大工歴27年

②傷害発生年齢 42歳

③傷害部位と発生の状況

- 電動丸ノコ操作中右手示指を亡失（MP）
筋を痛めて示指の機能が不全、約1年半後に復帰した。

④現在の状況

- エアガンは中指を使っているが、肘、肩を痛めており、エアガンの作業を1日中続けることが困難、通常の50%としか仕事ができない。
大工仕事全体では30%程稼働能力が落ちた

聴取③

①年齢57歳 大工歴40年

②傷害発生年齢 36歳

③傷害部位と発生の状況

- 電動ノコ操作中、負傷。1年間治療、寒いときは針を刺したように痛む。

④現在の状況

運転手になろうと思ったが、大工を続けることにした。稼働能力は40%に落ちる。中指でエアガンを扱うが、集中（的中）できない。

聴取④

①65歳 経験50年（大工）

②傷害発生年齢 35歳

③傷害部位と発生の状況

○示指の第一関節を約30年前に亡失した。

④現在の状況

現在、作業はくふうしてやっているが、作業速度など労働能力において若干劣る。とくに、最近電動工具使用頻度が多くなっており、つい示指の指先があるような錯覚で扱うこともある。

症状は、痛みはないが、現在でも血流が悪いので、他の指が温かくても示指のみ冷たいままとなっている。

聴取⑤

①65歳 経験50年

②傷害発生年齢 16歳

③傷害部位と発生の状況

○示指の第二関節から亡失

④現在の状況

・力が入らない。たとえば50キロ荷物を持ったとき、力を入れて持っているつもりでも、力が入らない。従って、疲れるのが早い。道具や電動具をもつ作業でも70%ぐらいの能力だと思う。

・あるべきところに指がないことで、道具つかみや物をもってもぶつけてしまう場合が多い。

・「慣れれば大丈夫」と医者に言われたが、何をどう慣れるのか、具体的に指摘してほしい。

・症状—亡失しているのに、そこに今も痛みを感じる。とくに、冬場は紫色になり、痛みがひどい。また、示指の残存部を蚊にさされると、「指先のかゆみ」となり、がまんできないくらいのかゆみとなる。

とくに食事と文字かきが不便である。

どうしても人目を気にする。

聴取⑥

①55歳 経験40年

②傷害発生年齢 不明

③傷害部位と発生の状況

○示指亡失

④現在の状況

基本的に道具は示指があることを前提として作られている。欠損した指は機能に著しく「非効率さ」が伴うもの。

見た目には中指がセンターのように思われるが、建設作業でのセンターはあくまで示指であり、他は押さえの役割を持つ。

示指を欠損した場合、中指での代替となるが、培ってきた技能、作業効率が70%落ちる。

- ・作業時間の経過に伴い全身の疲労蓄積が大きくなる。
- ・ヘラ、テープ張り、カッティングなどの位置決め、作業のバランスで、示指の役割は他の指に替えがたい。
- ・実際の道具使用では、示指の役割が意外に重要性をもつ。